

# 本庁舎等整備（区民交流機能）に係るワークショップ実施概要について

## I. 実施概要

### 1. 目的

区役所本庁舎に設置することの最大の特徴は、多くの方が、様々な目的で訪れる場所であり、その多種多様な人々（区民、活動団体、事業者、そして行政職員）が、この区民交流スペースに立ち寄ることで、区内の様々な市民活動にふれることができ、その結果、新たな出会いや交流、活動が生まれることが期待される。

そして、その目的の達成には、区役所に何かの用件で来庁された方のみならず、区役所に来る用件はなくとも、「この区民交流スペースに来たくなるようなしかけ」が必要であり、さらに、「様々な市民活動に緩やかにふれられるしかけ」も併せて必要である。

そこで、このコンセプトを実現するために必要な機能をソフト・ハードの両面から実際に利用する区民の皆さんに検討・提案していただくことを目的としてワークショップを実施した。

2. 開催日時 平成30年11月10日（土）午後1：00～午後5：00

3. 開催場所 世田谷区役所第3庁舎3階ブライツホール

### 4. 内容

#### (1) 基調講演

テーマ：参加・交流・協働の場所づくりのいくつかのヒント

講演者：土井 良浩氏 弘前大学大学院地域社会研究科准教授

#### (2) 他自治体事例紹介

武蔵野市 武蔵野プレイス 市民活動支援センター

さいたま市 市民活動サポートセンター

#### (3) 中間報告説明

#### (4) ワークショップ

### 5. 参加者

当日は、19人が参加した。

## 6. 運営方法

### (1) 概要

活発な意見交換が行えるように、参加者を5つの班に分け、ワークショップを実施した。なお、各グループには進行補助として、それぞれ1名のファシリテーターを配置したため、1班あたり4～6名となった。

グループごとに、区民等が集い、市民活動にふれられ、知ることができ、交流が生まれるスペースとするために「区民交流スペースに来たくなるようなしかけ」と「様々な市民活動に緩やかにふれられるしかけ」についての話し合いを行なった。まとめたものを各班の意見・提案として、発表してもらった。

項目	時刻	時間	内容
開会	13:00～13:10	10分	・挨拶
講演	13:10～13:40	30分	・講演 弘前大学大学院 土井准教授
事例紹介	13:40～13:55	15分	・他自治体事例紹介
中間報告説明	13:55～14:10	15分	・基本設計（案）中間報告説明
休憩	14:10～14:20	10分	
説明	14:20～14:30	10分	・ワークショップ説明
話し合い	14:30～15:15	45分	・意見交換
(小休憩)	15:15～15:20	5分	
話し合いまとめ	15:20～16:05	45分	・まとめ
休憩	16:05～16:15	10分	
発表	16:15～16:45	30分	・各テーブル発表（4分×5テーブル）
講評	16:45～16:55	10分	・講評
閉会	16:55～17:00	5分	・挨拶 ・アンケート記入 など

## II. 実施結果

### 1. 結果概要

各班「話し合いのまとめ」を代表者が発表した。そこで出された主な意見・提案を班ごとに整理した。

#### (1班)

- ・区民交流スペースでは何かが行われている場である必要があり、市民活動の発表の場であると定義。
- ・区民の発表の場として、多目的オープンスペースに可動式のステージがあり、大道芸や音楽など、何らかの発表をここで常にやっている。また、キッチンカー（もちろん外にも中にも移動できる可動式）があって、起業を考えている方が試食用の調理をして皆さんに配ったりする。さまざまな世代の人が集まるように、キッチンから美味しそうな食べ物が提供されることは大切。
- ・キーワードは「おしゃれ」「気軽に」「ゆったり」。できれば夜も使えるようにしたい。
- ・発表の場にふさわしいデザインが必要。大胆であるが建物全体に少し丸みを帯びたデザインにしてみたらどうか。
- ・市民活動を一覧できるような掲示板、大きなデジタルサイネージみたいなもので動的に表現されているものが必要。
- ・色々なものを生み出すための機能や設備なども必要。Fab ラボとか印刷室とかロッカーがあったり、ボックスギャラリー兼ロッカーのようなものがある。市民活動の方々がここをロッカーにして使うが、中身が見えてボックスギャラリーになっているなど。
- ・Fab ラボとか印刷とかに精通したコンシェルジュの常駐が必要。
- ・その他、高齢者への支援や、前川建築を遺産として残す工夫が必要。
- ・エフエム世田谷のサテライトができるなら、PR 面でコラボしたい。

#### (2班)

- ・「世田谷区に住んで良かったと思えることが大事」  
転入手続き、納税などの際に訪れた人が様々なイベント、市民活動などのサポートがあることを知り、「世田谷区」を選んで良かった、住んでいて良かった、住み続けたい、と思える PR の場にしたい。世田谷区を意識し、誇りをもつような仕掛けがあると良い。
- ・「情報の届け方の工夫・仕組み構築が必要」  
現状ではイベントや市民グループの活動・催しはたくさんあるものの、必要な人に届いていないという状況がある。これから転入する人、また今後も世田谷に新しく来る人を増やすためには、まだ参加したことがない人、知らないに情報を届ける仕組みがあると良い。そのためにはソフト面が重要で、WEB を見ないと知らない、参加しない人は知らない、では勿体無いので、WEB サイトに関心事を登録すると関係するイベント情報を届けてくれる、というような仕組みができると良い。
- ・「空間のカッコよさ、新しさが絶対必要」  
ここで会議するのがカッコイイ、ここでイベントをしたら写真を撮りたい、と SNS などを使う世代にもアピールできるデザインは非常に重要。ベンチマークにするべきは渋谷や東京にあるコワーキングスペースなどである。

床材には温かみのある木材を使ってはどうか。木材はお洒落であるだけでなく、高齢者、女性や子ども、どの世代にとっても馴染みが良い。照明・音響は、いかにも「会議室」というものは避けて温かみのあるものが良い。

また必要に応じて区切れる可動式パーティション兼掲示板のようなものや、ペッパー君の受付案内、電子ホワイトボードからスマートフォンに写真が送れるものなど、「新しい設備」を取り入れ投資することでハードが本当の意味で生きるのではないかと思う。

・「バリアフリーへの配慮・心地よさを求めたい」

バリアフリーへの対応は最低限ではなく、使い勝手や心地よさにも配慮すべき。車椅子・ベビーカーが通れるだけでなく、そのまま乗れるエスカレーターがあると良い。エレベーターは車椅子の人にとっては実はとても圧迫感がある。

・「運営は専門性も必要」

運営については、専門性を持った人材が必要となる。ボランティアではなく部署をつくるか委託などが必要だ。その事によりハードとしての空間が生き続け、人が集まるような場になっていくのではないか。

・「運営組織について」

運営組織にはコンシェルジュ、コーディネーターの役割が重要。

また区民が持つ技能を活かして新しい仕事をつくりだすことや、同じ興味や専門性をもつ人の集まりで部活動のようなものを結成するなど、市民自治が発揮できるような継続性のある仕組みを考えたい。

### (3班)

- ・すぐおいしいコーヒーやスイーツが食べられる、勉強スペースがある、夜にはお酒が飲める、世田谷の面白い大人が何かやっているなど、用事がなくてもわざわざ「行きたくなるもの」が必要。
- ・さまざまな人が集まる場には、そこに集う方たちをコーディネートする機能が必要。特定のグループがスペースを独占しないような空間づくり、運営も必要。
- ・交流スペースから広場を見る風景はみどり豊かにして、落ち着いた雰囲気にした。
- ・世田谷区役所に来訪された区民にアンケートを行ったことがある。殆どの人は世田谷総合支所に用事があったが、15%ほどは本庁舎に用事があり、どこに相談すべきかわからない悩みや不満を抱えている人もいた。こういった悩みを聞いてくれる機能もあると良い。

これらの意見を踏まえて検討。

#### 「4.5 畳貸出しプロジェクト」

- ・可動式の4.5 畳を交流スペースの好きな場所に設置して、市民活動ができるスペースを貸し出す。
- ・4.5 畳では、会議をしたり、活動のPR をしたりなどの市民活動を行う。
- ・4.5 畳の中には、世田谷区内の市民活動紹介コーナーや雑誌コーナーなども作り、だれもが気軽に立ち寄れるようにする。
- ・市民活動が自立していくためには資金運営も必要なので、収益活動もOKにする。
- ・4.5 畳を1ユニットにして、2ユニットや4ユニットなど、大人数でも利用できるようにする。
- ・貸出し料は、利用料だけでなく、交流スペースのコーディネーター役を担うことも条件とし、この場を利用する人たちで交流スペースを運営していくしくみにつなげる。

## (4班)

- どのような人が使っていくのかという展望を見据えた計画が大前提として重要であり、若い人が来やすいというのは大事である。機能的にレストランやお店ができるスペースに関しては、おいしいか、本当のプロが作っているのが大事であり、そこに来たくなるような本当のおいしさがあるような場所をつくる。レストランにしても、同じ人たちがずっといるわけではなくて、各地域の代表するお店だとか、ジャンル毎の代表するお店などを公募したり、選んだりしながら、そこが世田谷の出張店舗だったりとか世田谷区内のアンテナショップみたいにして、そこに常に来たくなるような場所になっていくのが大事である。値段も安ければ、若い人も来たくなるのではないかな。
- 来たくなるしかけとして、ライブやフリーマーケット、犬のイベントや親子のイベントなどの様々なアイデアがあり、例として映画を挙げると、外で映画のスクリーンを作って、リングや階段からも眺められるような外部空間の使い方もあるとよい。また、障害者の方も屋外で楽しめるように階段にスロープがあったり、映画なので夜も楽しめるように、照明に公共施設にあまりないような色っぽさがあるといい。
- 若い人が使うのであれば、使える時間も長いほうがいい。働いている時間で来れないと意味がないので、世田谷線の始発から終電まで空いているというような、朝早くから夜遅くまで使えるってことが若い人も使えるという結果に繋がる。
- 来たい人のなかには誰かの役に立つことをしたい人もいると思うので、情報繋ぎとしてパソコンに詳しい人につないだり、例えば展示にしても歴史の展示や世田谷区のジオラマを展示したらどうか。せっかく展示するなら地域のガイドに役立つようなイベントとつながっていく、展示とイベントと活動が繋がっていくという形があるといい。
- 予約なしで、仕事でも色々使え、長い時間あいていて、ある程度自立性を持って使っていくが、ルールやバランスが大事なので、そのなかでお父さんのように挨拶をかわすような土壌を作っていく必要がある。
- 若いアーティストの表現の場として、展示などの工夫も普通にポスターをつくとつまらなくなるようなところもアーティストの力を借りて、見たくなるような展示も協働の場としてつくれるといい。

## (5班)

- 集うためには、おいしいものがあったり、イベントなどがやっている必要がある。また、市民活動をされている方で課題だとか相談ごとを持っている人にとっても、行ったら何か情報を得られるというような機能もあった方がいい。
- 何か相談事を持っている方が、このコーナーに来れば何かしらの情報が得られるということが必要である。そのためには、色々な情報をアドバイスできる方、コンシェルジュ的な人が必要であり、ネットで出ていないような情報もあったりするので、広範な知識やネットワークが必要となるため、個人では難しいかもしれないので何人かというような形になるかもしれない。
- 区政とか市民活動に触れたことがない、そもそも普段関心がないというような区民に対して、こういうところで区政をお笑いイベントみたいな形で解説したり、マンガで解説したりしたらどうか。そのようなことで、区政や市民活動に関心を持ってもらえるのではないかな。
- 色々なことを簡単に紹介しているライブラリー、例えば3分とか5分くらいの動画で簡単に分かるようなもの、市民活動の内容でも文化的なことでもいいと思うが、そういうものがあつた方がいいのではないかな。
- 繋がるということについて、テーブルで話し合うテーマを出しておいて、そこで話し合われていることを提示しておくとか、区職員と区民の方と交流パーティーのようなものを開く必要があるだろうとかも意見が出た。
- スペースについては、そもそもスペースが狭いので、広場やピロティの下の部分を全部、区民交流スペースの管轄にしてスペースを広くして、ここを好きに使ってもよいとか、外壁も展示させてほしい。その他、ロビーは不要だとか、総合案内があつて、何階に行ってくださいと言われてたら、区の職員がひろばに降りてくるとか、ここから内線に電話して「〇〇課の〇〇さん、来てください」とここを使ってもらおうというような形があるといいのではないかな。

- 区政や市民活動に関心のない人も多いので、ワークショップ自体ももう少し人が来てもらえるような工夫をした方がいい。











**集う**

持ち込み OK	大人の アヒル 芸術教室	イベント	相談コーナー ジャンル別 ジャンル別
犬の散歩 カフェ	大人の ホビール イベント	ベテランの ヘルスクア イベント	行政 新設の イベント機能
常時 お話し	フードロス + 地域産品 紹介 軽食を 楽しめた イベント		

カフェ  
イベント OK

レストラン  
不要

売店  
不要

**触れろ**

この仕事も このまちが 情報かき	お笑い イベント 区政	漫画で 区政
情報センターの 活性化 コンシェルジュ	拡散	関心の転換 に 効果的に 出会う
情報の 調べる易さ	掘り起こし	簡単紹介 導入動画 ライブラリ

**つながる**

ネットワーク の 周辺団体の ネットワーク化	テーマ テーブル	区職員 区議 区民 交流 バー
		マッチング コンシェルジュ
		マッチング 掲示板
		フリー テーブル

